

団体名：NPO 法人 クロスフィールズ

取組地域：石川県 金沢市

取組名：地域の居場所と連携した地域主体の社会的処方のモデルづくり

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
☆	地域の包括的見守り体制の構築	☆	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	こども・若者	中高年者	★ 高齢者	障害者	外国人	☆ 被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	☆ 支援者支援	

（1）取組の内容

目的	地域における人々のつながりの希薄化とそれに起因する孤独・孤立の課題の予防に向け、地域住民同士のつながりを創出し共助の仕組みを活性化させるための新たな取組として、地域の多様な主体と連携した社会的処方のモデルを構築する。
対象とした人	新たな環境への適応能力が比較的低く、ひきこもりの傾向が強まることで孤独・孤立のリスクが深刻化する高齢の広域避難者
内容	「社会的処方」のアプローチを活用し、金沢市近郊に避難している高齢の広域避難者が集い、交流し、つながりを深める機会を提供した。具体的には、以下の取組を行った。 ①地域の団体との連携をつうじた居場所機能を持つ交流型イベント『笑語ひろば』の連続開催（アウトリーチを含む） ②市民リンクワーカーの発掘・育成・実践と地域資源（地域の居場所機能を持つ場所・団体）の開拓 ③市民リンクワーカーが高齢の広域避難者と「出会い」「つながり」「地域資源につなげる」ことによるコミュニティ形成と地域参加の促進

(2) 取組の成果

連携した団体	石川県庁、金沢市社会福祉協議会、一般社団法人ケアと暮らしの編集社、金沢市を拠点とする地域団体、石川県内におけるこども食堂のネットワーク団体、H1 法話グランプリ、地域の銭湯とお寺等と連携し、イベントの開催や周知等を行った。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県庁及び社会福祉協議会との連携による情報発信。地域団体やリンクワーカーからのチラシ配布、生活導線 上への掲示、SNS を活用した周知等も行ったが、最も有効な方法は社会福祉協議会による広域避難者支援拠点でのチラシ配布や巡回訪問時の案内、県庁による情報発信だった。 ・ 多様な企画コンテンツを開催。体験型（大半が女性・継続参加者）と鑑賞型（お寺での法話は、新規参加者が 45%、男性参加者が 32%）等、開催方法によって参加者の傾向の差が出た。 ・ メディア発信による新規参加者及び協力者の呼び込み。（新聞掲載 3 回、テレビ特集 1 回）
定性的な成果	(定性的成果)
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『笑語ひろば』への参加及びリンクワーカーとの出会いがきっかけとなり、他の地域資源につながった参加者の事例が複数見られた。 (定量的成果) ・ アンケートの結果、イベントの満足度は全体を通じて高く、「大変満足」「まあまあ満足」と回答した人は 92.4%、「満足ではない」「あまり満足ではない」と回答した人は 0%だったため、参加者のニーズに近いコンテンツ、場づくりを実践できていると考えられる。 ・ 有効回答 87 人中、61 人（70.1%）の参加者は 1 人以上の新たな友人・知人を得ており、一人当たり各回平均 1.37 人、最多で 5 人の新たな友人・知人を得ていた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	N P O 法人 クロスフィールズ
代表者	代表理事 小沼 大地
設立年月日	2011 年 5 月 3 日
スタッフ数	25 人
団体住所	東京都品川区西五反田 3 – 8 – 3 町原ビル 4 階
ウェブサイト	笑語ひろば : https://hblp.crossfields.jp/warakata-hiroba
メッセージ	当団体は地域の多様なプレイヤーと連携し、「社会的処方」の考え方に基づいて孤独・孤立の予防に取り組んでいますが、この課題解決には行政、自治体、企業、N P O 等立場を超えた人々や組織の連携が不可欠です。共に情報や知見を共有し合い、学び合いながら取組の輪を広げていきましょう。

団体名：NPO 法人 場作りネット

取組地域：街に居場所ができる“のきしたしごと事業”

取組名：長野県 東信地域

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供	☆	居場所づくり
	食を通じたつながり	★	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実	☆	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯		☆ 不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	☆ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援

（1）取組の内容

目的	人と社会の関係性を変えていく一つの方法として、民間の地域資源（古本屋、カフェ、映画館や農家等）で仕事をするということを通して、これまで出会ってこなかった生きづらさを抱える人と街で働く人が出会う機会を作ることを目的とし、本事業を実施した。
対象とした人	世代や性別、事情は問わず、社会的自立の機会を必要としている人や社会参加の機会を持てずに孤立している人等を対象とした。
内容	<ul style="list-style-type: none">人々が集まる場である地域資源に仕事を提供してもらい、社会的に孤立した様々な属性の人が、街の中で仕事体験をすることを通して、日常生活や孤立・分断された関係性に何らかの変化をもたらすことを目指した。当事者には有償ボランティアとして 1 時間 800 円の謝金を本事業の経費から支払い、対価を得る仕事の疑似体験を通じて一度は失われてしまった社会との繋がり、仕事をすることで得られる感覚を実体験する機会を提供した。事業所には、労働機会、場の提供と共に、関わりを積極的に持つてもらえる環境の設定を依頼し、様々な事情で孤立を余儀なくされていた人達と街との出会いをきっかけに、街が社会資源化していくことを目的として事業を行った。

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> 若者サポートステーション・シナノ（NPO 法人侍学園）と連携し、自宅で家族と生活しているが就労に結びつかない 30 代の男女 4 名を本事業につなげた。
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮状態だった参加者を支援するため、社会福祉協議会の食糧支援につなげた。 地域資源と連携し、仕事を創出した。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 仕事内容の伝達や、注意点や工夫すること等について、仕事開始時にコーディネーターやジョブセンターが介入しすぎず、現場のスタッフと直接やりとりしたり、他の参加者から教えてもらうことによって、仕事を真ん中にしたコミュニティ意識が参加者の中に生まれるように見守った。
定性的な成果	事業終了時に当事業の参加者に対して行ったアンケートにおいて、以下の結果が得られた。
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 「実際に事業に参加してみて、参加者それぞれにとってどのようなものだったか」という問に対し、73.7%が「お金がもらえた」と回答し、36.8%が「視野が広がった」「自分のこと（得意・不得意）が知れた」と回答した。 「本事業が孤独・孤立対策に役立つか」という問に対し、36.8%が「大いに役立つと思う」、47.4%が「役立つと思う」と回答した。 全体の感想としては、「自信につながった」、「生きるモチベーションになった」との声もあり、参加者それぞれが次の展開に向かえるような体験になったことがわかった。

(3) 取組の様子

		<ul style="list-style-type: none"> ◆街の資源 5 か所で実施中 ◆28名の登録者(中学生～70代) ◆調整役に 1 名のコーディネーター ◆ジョブセンター 1 名がフォロー 			
劇場・ゲストハウス  <ul style="list-style-type: none"> ◆演劇、音楽の公演の舞台設営スタッフ ◆コワーキングスペース床張り 	映画館  <ul style="list-style-type: none"> ◆イベントチラシ配り ◆子の見守り ◆インタビュー・SNS投稿 	地元企業  <ul style="list-style-type: none"> ◆祭りに出店(古本販売、刺繡グッズ販売) 	古本屋  <ul style="list-style-type: none"> ◆販売、接客 ◆コミックセット作成 ◆SNS投稿 	オーガニックファーム  <ul style="list-style-type: none"> ◆収穫、調整 	

団体概要

団体名	特定非営利活動法人 場作りネット
代表者	理事長 羽田 啓
設立年月日	2013 年 4 月
スタッフ数	54 名
団体住所	長野県上田市天神 2-4-68 パークサイド天神 403 号室
ウェブサイト	https://www.buzzcre.net
メッセージ	今後も、出会う人々の温度を感じながら、個人の問題からつながる社会への問いかけを言葉にしていく対話を諦めず、わたしたちの暮らしの中の関係性に変化を起こすようなデザインの場作り（関係性モデル）を続けていきたいと思います。絶望や孤独の中から生まれるものの大変にできる仲間が増えることを願っています。

団体名：認定特定非営利活動法人 人と動物の共生センター

取組地域：岐阜県 岐阜市

取組名：ペット版フードバンクによる、寄り添い相談見守り事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
☆	地域の包括的見守り体制の構築	★	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
☆	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実	☆	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
☆	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆	多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
	子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	★	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援

(1) 取組の内容

目的	ペット版フードバンクの整備や、アウトリーチにより問題が大きくなる前に予防的な支援（飼育指導、繁殖抑制、衛生環境の改善、預かり先の確保による頭数の削減等）を行うことにより、当事者が必要な支援とつながりながら、ペットと共にその人らしく地域の中で生きていける環境を実現することを目的とする。
対象とした人	障害や精神疾患等、何らかの生きづらさを抱えながらペットを飼育している生活困窮世帯であって社会から孤立している世帯、及び今後深刻な生活困窮状態に陥るリスクを抱えた世帯を対象とした。
内容	ペット版フードバンクを実施することで、これまで当団体がリーチできていなかった世帯にアウトリーチし、生活状況を把握することで、今後増大するリスクに対し予防的な支援を行うための取組を実施した。地域包括支援センターや生活就労サポートセンター等との協働をベースに、ペット版フードバンクについて告知し、利用者を募った。また、地域のフリーペーパーに活動の情報を掲載し、利用者へのアウトリーチ活動を行った。アウトリーチできた生活困窮者に対しては、生活状況のアセスメントと必要な支援機関への接続を行った。また、当団体による直接的なサポートとして、金銭面、生活面、精神面、適正飼育の4側面からサポートを実施した。

(2) 取組の成果

連携した団体	次のような機関・団体等から相談を受け、合同の自宅訪問や、連携のもとで継続的支援を行った。
協力いただいた団体	地域包括支援センター、ヘルパー、生活就労支援サポートセンター、社会福祉協議会、福祉事務所、保健所、ボランティア 等
対象とした人とつながるために行った工夫	生活困窮ペット飼育者は、周囲の人から「お金もないのにペットを飼っているなんて」と責められることが多く、そのため、支援を拒否する状態になっていることも少なくない。当団体は当事者の思いに寄り添い、「本人にとってペットが必要な存在である」という前提のもとでペットと本人の支援に入る姿勢を示し続けた。具体的には、飼育を否定することや手放すことを前提に話をするとはしないように徹底した。身の上話や世間話を交え、就労への意思やどのようなところであれば働きそく等、生活の安定に向けた情報収集も行った。すでに自立支援につながっている場合は収集した情報を共有した。このような姿勢を持つことで、対象者が当団体に相談しやすい状況を作ることができた。当団体が間に入ることで、それまでつながっていなかった他の支援機関の支援にもつなぐことができた。このような方と出会うための工夫として、主には福祉関係者への活動の周知を実施した。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 放置すればライフラインの停止や命に関わる事態に発展する可能性があった事例において、ペットフードを支援し、フード代をライフラインの支払いに充てることで事態の悪化を防ぐことができた。安価なフードを紹介することで経済的な持続性を高めることにつながった。 支援当初は相談できる場所がわからずどこにも相談できないために孤立していた事例において、当団体が関わりを持ち、支援機関につなぐことで相談ができる状態に変化した。 フードを届けることをきっかけに、飼育頭数、不妊去勢手術の有無の確認等、問題の早期発見のきっかけになっている。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	認定特定非営利活動法人 人と動物の共生センター
代表者	奥田 順之
設立年月日	2012年3月
スタッフ数	14人
団体住所	岐阜県岐阜市岩地2-4-3
ウェブサイト	https://human-animal.jp/
メッセージ	孤独・孤立状態であるペット飼育者と周りをつなぎ、人とペットを切り離さない支援、そのための早期発見・早期介入ができるよう、社会福祉関係者、行政とともに連携して、今後も活動を続けていきたいです。大切にしているものは千差万別、みんな違う。ペットが人に与える影響は、孤独・孤立対策の中でも重要だと思っています。

団体名：特定非営利活動法人 かみああと
取組地域：岐阜県 多治見市
取組名：ユニバーサル・ファクトリーの提供事業

取組の種類

1. つながりの場づくり		
交流の場の提供	★	居場所づくり
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築		
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援		
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組		
買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化		
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	☆ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	孤独・孤立状態を強いられている方々は高齢者ばかりではなく働き盛りのミドルクラスにも多いことや、若い世代においてもひきこもりや家庭の問題により孤独・孤立を感じている方が多いこと等を踏まえ、ものづくりを媒体として、より幅広い世代が交流できる場を設けることとした。
対象とした人	高齢者（独居高齢者はもちろん、家庭内でも孤独を感じている高齢者） 障害者 こども・若者世代
内容	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりをとおして、生きがい・やりがいを持てるような活動の場を提供した。 具体的には、岐阜県多治見市の民家（現在は使われていない）を活用し作業場（地域の方が集まる場）を設置し、ジオラマやクラフトキットの製作を体験できる機会を設け、活動の広報を行った。 製作したジオラマを鑑賞する会も開催し、高齢者からこどもまで、幅広い方に参加いただいた。

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> 同業の福祉事業者（NPO 法人）と連携し、クリスマスイベントを開催した。イベントでは、こども食堂が開催されたため、イベントに参加したこどもや保護者に対して本事業で実施している取組内容の周知を行った。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 多世代が交流できる場の工夫として、皆で一緒に作り上げていく過程が楽しめるジオラマづくりを中心に居場所を設計した。 ポスター等による居場所の告知に関し、地域の世話役や古くからの住民の方々の協力を得た。
定性的な成果	(定性的成果)
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりを通じて、居場所に集まつた人々が楽しみながらその場で過ごすことができた。また、作って終わりではなく、作品の鑑賞会を目標として設定することで、参加者がやりがいを持って製作に取り組む姿が見られた。 (定量的成果) <ul style="list-style-type: none"> 多治見市の作業場では、近隣の高齢者 4 人（男性 2 人、女性 2 人）が参加、ジオラマの鑑賞会には 9 人が参加した。（大人 4 人、こども 5 人） クリスマスイベントは午前 11 時から午後 3 時頃まで開催した。来所人数は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 他の施設の利用者：5 組～6 組（1 組 4 人～6 人程度） ボランティア活動の方々：約 8 人 開催施設の職員：6 人

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 かみああと
代表者	理事長 高木 敏明
設立年月日	2015 年 9 月 1 日
スタッフ数	5 人
団体住所	愛知県瀬戸市南東町 13 番地
ウェブサイト	https://kinomo.jp/universal-factory/
メッセージ	ものづくりをとおして、孤独・孤立対策を地域の活動としましたが、より広く活動するために私たちのつながりを利用して大きな輪を構築したいと感じました。

団体名：特定非営利活動法人 ささしまサポートセンター

取組地域：愛知県 名古屋市

取組名：生活困窮の当事者と共に学ぶ地域共生社会の担い手育成事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
☆	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
☆ 子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	★ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

（1）取組の内容

目的	野宿者や生活困窮者への支援に加えて、これらの方々に携わるボランティア活動への参加のハードルを下げ、地域の多様な人々が集う場と共に作り続けられる基盤を整えるため、当団体の活動内容や貧困・生活困窮に関する知識を学ぶ研修を行い、先輩ボランティアや当事者に教えながら実際の活動に参加する機会を提供する。
対象とした人	①野宿生活者及び元・野宿生活者で現在はアパートで暮らしている人を中心とした生活困窮者 ②子どものいる生活困窮世帯 ③上記①②の人の地域生活を応援するボランティアに参加してみたいと考えている人
内容	<ul style="list-style-type: none">生活困窮者と共に、料理や茶話会、レクリエーション等のサロン活動、商店街のイベント等での駄菓子屋の出店、神社の清掃活動等のボランティア活動を実施した。生活困窮者のアパートを訪問し、生活上の困り事等を聞き、共に解決策を考える活動も実施した。子どものいる生活困窮世帯に対しては、無料で食品等を配布するフードパントリーを開催した。ボランティア希望者に対しては、当団体の活動内容と、貧困や生活困窮に関する基本的な知識を学ぶことができる研修「ささしまカレッジ」を開催した。

(2) 取組の成果

連携した団体	フードパントリーに必要な食材が集まらず困っていたことを中村区社会福祉協議会に相談したところ、地域の飲食店を紹介され弁当の提供を受けることができた。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 既存の業務や役割にボランティアの方をあてはめていくのではなく、得意なこと、やってみたいと思っていることに合う仕事をお願いした。たとえば、駄菓子屋では接客を苦手と感じる人にはチラシ配りをお願いする、等。 「ささしまカレッジ」は当団体の HP、SNS で参加者を募ったほか、名古屋市内 16 区の社会福祉協議会、愛知県内の大学、当団体の会員・寄付者にパンフレットを送付する等して参加を呼びかけた。
定性的な成果	(定性的成果)
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 商店街で駄菓子屋を出店することで町の人との間に会話が生まれ、当団体の取組を知ってもらう機会となつた。また、「ささしまカレッジ」を通じて 6 人が新たに当団体のボランティアとして参加し、うち 4 人が継続して活動している。 (定量的成果) <ul style="list-style-type: none"> サロン活動：延べ 220 人が参加、ボランティア活動：駄菓子屋 延べ 13 人、神社清掃 延べ 23 人が参加、アパート訪問活動：延べ 71 人を訪問（うち、延べ 37 人と面会） フードパントリーで食品等を受け取った方：延べ 634 人（634 世帯） ささしまカレッジ参加者：会場参加延べ 24 人、オンライン参加延べ 20 人、新たにボランティアとして活動を始めた人 6 人

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 ささしまサポートセンター
代表者	森 亮太
設立年月日	(任意団体として) 1985 年 (法人化した時期) 2012 年 9 月
スタッフ数	ボランティア 30 人程度
団体住所	愛知県名古屋市中村区靖国町 1 丁目 94 番地
ウェブサイト	https://www.sasashima.info/
メッセージ	福祉や医療の専門家も、そうでない人も、野宿者も生活困窮の状態にある人も、同じ地域に生きる市民としてプラットにつながり、それぞれの人ができること、やりたいことを活かしてきました。これからもボランティアだからこそできること、ボランティアだからこそつながれることを大切に活動していきたいと考えています。

団体名：一般社団法人 Pay for World 屋号「えがおの駄菓子屋」取組地域：愛知県 春日井市
取組名：多世代が地域のもう一つの家の様に集まる駄菓子屋を作る

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		★ 居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

★ 多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯		☆ 不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援

(1) 取組の内容

目的	本事業で下記 3 つのキーワードをテーマに、居場所として地域のつながりを強化する。 <ul style="list-style-type: none"> 「高齢者が気兼ねなく相談できて楽しみがある居場所」 「母親の子育てをサポートする居場所」 「地域でこどもを見守ることができる居場所」
対象とした人	世代・課題の有無に関わらず、地域の高齢者からこどもまでを対象とした。
内容	高齢者が楽しめる居場所、母親が安心してこどもを預けられる居場所、こどもを見守ることができる居場所、それら全てを含みながら自由に過ごせる居場所づくりをした。支援される場所ではなく気軽に頼れる居場所とするための工夫として、「交流ボランティア」を設置した。交流ボランティアがこどもたちと一緒にボードゲームやバドミントンをしたり、相談・話し相手になることで、色々な交流を生み出すことができた。 また、居場所の周知するために、ホームページに孤独・孤立対策活動のページを追加した、さらに、活動の趣旨が分かりやすい冊子を製作した。他にも、春日井市の取組（繋がりノート作成）や市主催イベント等に協力する等して、活動を広げることができた。

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> 春日井市、春日井市社会福祉協議会、自治会、小学校・PTA 等と協力し、事業の周知等に取り組んだ。
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県内の居場所づくりをしている団体とともに連携団体「Aichi IBASHO Station」を発足
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 居場所に「交流ボランティア」がいることで、「ここに来たらいつもの人がいる」といった安心感を地域に作り出すことができた。また、子どもとのコミュニケーションにおいては、仲良くなることや、「親・先生ではない大人」として会話すること第一として活動した。仲良くなることで、世代に関係なく心を開いて自分のことを話してくれるようになった。その中には具体的な解決を求めているのではなく、ただ話を聞いてほしいという子どももいた。 高齢者については、困りごとの悩みが現役世代には簡単に解決できることであったため、身近な問題の解決をお手伝いすることで、つながりを強くすることができた。 駄菓子屋でありながら本来は居場所だということを認知してもらうため、団地のお祭りイベント等を開催した。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 期間中の総利用者数 約 6,000 人 月平均 約 800~900 人 施設内イベント・講座 合計約 50 回

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 Pay for World 屋号 えがおの駄菓子屋
代表者	代表 毛利規寛
設立年月日	2020 年 10 月 えがおの駄菓子屋としての居場所活動は 2023 年 12 月開始
スタッフ数	理事 3 人 ボランティア約 15 人
団体住所	愛知県春日井市岩成台 6 丁目 2-3 21 号棟 103 号室
ウェブサイト	https://payforworld.org/
メッセージ	課題への対処療法ではなく、孤独・孤立を感じさせない楽しい地域を作り、心を育むことを重視しています。楽しさの創出という前衛的な形をとることで、孤独・孤立対策にもグラデーションが生まれ、より重層的な課題解決が可能になると考えます。それぞれの想いで始められることを実行し、孤独・孤立を感じない日本にしていきましょう。

団体名：特定非営利活動法人 しんしろドリーム莊

取組地域：愛知県 新城市、静岡県 浜松市・湖西市

取組名：空き家再生型メンズシェッドとおやじ講を融合させた孤独・孤立対策

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供	★	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	こども・若者	中高年者	★ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

（1）取組の内容

目的	今まで地域社会から孤立していた男性高齢者を、空き家再生型メンズ・シェッドを拠点に、空き家問題を解決する立役者とすることで、孤独・孤立状態から脱し、病気等の予防にもつながり、医療費や介護費等の負担が軽減され国家財政の健全化にも貢献することを目指す。
対象とした人	高齢男性
内容	<ul style="list-style-type: none">地域の集まりの場であった炭焼き小屋を「新城メンズ・シェッド（男の小屋）」として再生し、地域の人を対象に「おやじ講」と称する寄合を行い、新城メンズ・シェッドの普及を図った。新城市長に進言し、市行政の地域づくり部門を孤独・孤立対策の担当部署に任命していただき、令和7年1月23日に市地域づくり部門、福祉部門、政策部門と共に、「孤独・孤立対策推進フォーラム」を開催し、市役所幹部職員等34人の参加を得た。

(2) 取組の成果

連携した団体	・孤独・孤立対策推進フォーラムについて、新城市と連携し、市民協働部、健康福祉部、企画部の共同開催という形式で実施した。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 本事業がターゲットとする高齢男性は、様々なプライドが邪魔をして、との対面が難儀になり、孤独・孤立に陥る傾向がある。このため本事業では、空家の地権者である高齢男性を地域の空家問題を解決する立役者とすることで、当事者のプライドをマネジメントした。 孤独を望む方には、孤独・孤立が最大の病理であることを説明し、居場所に来ることで病気を回避し、余計な医療費や介護費等の負担がかからなくなる可能性があること等、居場所に来るメリットを伝えた。 活動においては、「支援」のレッテル貼りを避けることに気を付けた。また、「そこがあなたの居場所である」という押しつけをせず、居場所に魅力を持たせ、その結果本人が気に入ればそこが本人の居場所になると考えた。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> メンズ・シェッドを運営するメンバー10人で交流イベントを1回主催し、3世代36人が集い、孤独・孤立対策の楽しさを実感できた。 本事業の実行委員に、県境を越え静岡県浜松市のメンバー1人が加わり、生活圏で交流を図ることの可能性が広がった。また、実行委員会への地元住民の参加が増加した。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 しんしろドリーム荘
代表者	代表理事 山本 拓哉
設立年月日	2005年4月25日
スタッフ数	総数30人 専任5人
団体住所	愛知県新城市豊栄439-2
ウェブサイト	https://dreamso.jp
メッセージ	孤独・孤立対策は、放っておけない気持ちが原点であると思います。それは、それぞれの活動の共通言語となり、人と人、活動と活動をつなぐ役割を果たしてくれると信じて、共にがんばっていきましょう。

団体名：特定非営利活動法人 わんず

取組地域：三重県 度会郡玉城町を中心とした周辺地域

取組名：わんずささえあいネット

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		★ 居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実	☆	SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

☆ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	☆ 高齢者	☆ 障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
★ 子育て世帯	☆ ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	孤独・孤立状態に陥ることを予防し、寂しさを感じている人々に寄り添うため、フリースペースと夜間チャットを実施した。また、ささえあいの子育て、学びあいの多世代交流を通じて、「孤独ではない、すぐ近くに助けてくれる人はいる」と感じてもらうと共に、関係性の中で自立し、次代の支え手となる双方向の関係づくりを目指した。
対象とした人	課題の有無に関わらず地域住民全般を対象としているが、メインターゲットとして、シニア、子育て世代を念頭に置いた。
内容	<ul style="list-style-type: none">居場所の運営として、平日 13 時～17 時までのフリースペースと 19 時～24 時までのフリーチャットを開放した。ささえあいの関係づくりを目指し、「ささえあいの子育て」のためのルール作りや、「学びあいの世代交流」を実施した。「学びあいの世代交流」では、足育（マッサージ師が講師となり、赤ちゃんからシニアまでが月 1 回、足裏マッサージを学ぶ）、くずし字の会（平均 4 人の参加で源氏物語や百人一首の仮名を読み、自分で書く会）、食活部（地元の弁当屋や利用者を講師に、体に良い食事を目指した調理実習）を実施した。フリースペースでは個別相談も実施した。

(2) 取組の成果

連携した団体	昨年度実行した「玉城町つながりプラットフォーム事業」の連携会議をきっかけに、数か月に1回の連携会議を継続した。参加者は玉城町社会福祉協議会、玉城町内NPO法人、福祉施設、自治区等だった。また、昨年度から玉城町保健福祉課と玉城町社会福祉協議会が開催している居場所部会にも参加している。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースペース、フリーチャットの周知としてチラシを作成した。玉城町広報紙へチラシを挟み全町民に配布するほか、子育て世代が利用する町内の施設、郵便局、スーパー等にポスターを掲示した。 ・未就園児が利用する子育て広場で周知活動を行った。ランチ会等も開催した。 ・当法人が受託している玉城町の養育訪問支援事業の対象者への声掛けを行った。
定性的な成果	(定性的成果)
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児を子育て中の母親が子連れで訪れる機会が増え、それぞれが交流した。二十代前半で、母親であることにストレスを感じていた女性は、スペースで同世代の学生や女性と知り合い「母親目線」ではない会話をすることで、肩の力が抜けてきた。 (定量的成果) <ul style="list-style-type: none"> ・フリースペースの利用者数 総利用者数 1,028人 (1日平均 約8人) ・フリーチャットの利用件数 7件 ・まなびあいの世代交流 足育 6回開催 延べ36人参加 くずし字の会 6回開催 延べ24人参加 食活部 4回開催 延べ33人参加

(3) 取組の様子

 <p>12月18日(水) 14:00～15:00 『親子足育 ワークショップ』 参加費 1500円 (お子さん1名追加+500円)</p>  <p>子育て中のあになたへ CHRISTMASに 贈し時間のプレゼントを 12月24日(火) 10:00～16:00 COLORFULスパビューティ 『ケア美容体験会』 ・ハンドトリートメント ・ネイル 美容時間10分 ・爪磨き ・ヘッドトリートメント ・足底角質ケア 参加費1000円 (料金あり+500円)</p>	
--	--

団体概要

団体名	特定非営利活動法人 わんず
代表者	柄本 明子
設立年月日	2020年1月14日
スタッフ数	理事5人、監事1人 職員13人
団体住所	三重県度会郡玉城町田丸 176
ウェブサイト	https://www.facebook.com/Onestamaki/
メッセージ	この難しい分野を縦横無尽に駆け回ができるのは、自らのミッションで行動し、縦割区分の狭間を縫うように動き回れるNPOや民間団体しかないと実感しています。ぜひ、あなたの住む地域で孤独・孤立対策を始めてください。あなたの団体と手を取り合って、ネットワークの一端となれるよう、私たちも努力を続けていきます。

団体名：一般社団法人 ZERO loneliness

取組地域：滋賀県 大津市

取組名：ペカン 1000 年の森でつながるコミュニケーションカフェ

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	★	空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	☆ 中高年者	☆ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	ボランティアや地域住民が休息したり、コミュニケーションをとったり、DIY や畑作業等好きなことができる場となる居場所を開設し、地域の交流拠点として社会的孤独・孤立の予防、軽減に寄与することを目的とした。居場所は空き家をリフォームして活用し、リフォームの過程も孤独・孤立対策の機会とする。
対象とした人	地域の方（特に孤独感を感じている高齢者）、不登校傾向のあるこども～学生、ボランティア活動に参加する若者、孤独感を抱える特定の人々に加え、課題の有無に関わらず居場所に来てくれるすべての方が対象
内容	<ul style="list-style-type: none">居場所開設準備期間は、空き家をフリースクールにリフォームするというキヤッチコピーでボランティアを募集した。農業、リフォーム、フリースクールをキーワードに、興味を持つ高校生～社会人の方が参加した。ボランティアと一緒に、竹林の伐採、ペカンの種植え、壁紙はり、鶏小屋の作製等の活動を実施した。居場所の開設のイベントとして、フォルケホイスコール（デンマーク発祥の「人生のための学校」とも呼ばれる教育機関、人生の様々な場面で自分を見つめ直すための時間を過ごせる場所）の紹介を行った。居場所の開設に合わせて、ボランティアや地域の方に参加いただきオープンイベントを実施した。地域の方にも認知いただき不登校や孤独を感じる方の相談にも乗る機会があった。

(2) 取組の成果

連携した団体	ボランティア団体、大工や狩猟免許保有者等専門知識を持つ方等、本事業の実施に対して支援、アドバイスをいただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	ボランティア団体と連携することで、当法人が持っていないノウハウを提供してもらい、ボランティアを広く集めることができた。 複数の作業・体験内容を設けて、ボランティアが様々な体験ができるようにすることで、飽きないよう工夫した。 地域の方と交流する中で、地域の知り合いを紹介してもらえるようになった。地域の方の人脉も活かして、居場所の認知度の向上を進めている。
定性的な成果	・ ボランティア活動/実施回数：9回、参加者：延べ49人
定量的な成果	・ オープンイベント当日の参加者は8人であった。参加者満足度は高く、また来たい・また行いたいという言葉をもらった。 ・ ボランティアに対して孤独感尺度のアンケートを利用して、定量化をはかった。ボランティア活動により孤独感の改善につながる可能性は見られたと考えられるが、さらに参加者の数を増やし、より詳細な解析を行う必要がある。 ・ ボランティアや地域の方等、みんなの居場所をオープンすることができた。ボランティアにとっては自分たちの手と一緒に作ったことで愛着がわき、いつでも戻ってこられると感じられる居場所となった。 ・ 地域の方にも認知されるようになり、地域の方の支援も少しずつ得られるようになってきた。また、不登校や学校に馴染めないこどもを持つ保護者や、鶏の飼育・DIY・畑作業が好きな方、等、地域の参加者も今後増え見込みである。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 ZERO loneliness
代表者	山口 頂
設立年月日	2024年5月30日
スタッフ数	3名（理事）
団体住所	京都府京都市左京区吉田橋町32番地 toberu1
ウェブサイト	https://zeroloneliness.jp
メッセージ	本事業を通じて、多様な人々が交流し、農業、DIY、動物や植物とのふれあい等を通じて孤独感の軽減とコミュニティの活性化につながることを実感した。今後は、居場所の運営を継続、発展させるとともに、活動のモデルを広く共有し、全国の孤独・孤立対策にも貢献したい。

団体名：認定特定非営利活動法人 つどい

取組地域：滋賀県 長浜市

取組名：孤立する人・家族をつなぐ地域の相談窓口＋居場所つどい

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
食を通じたつながり		★ 働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
☆ ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

☆ 多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	★ ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

（1）取組の内容

目的	これまで活動を行ってきた中で、いくら「相談を受け付けています」と広告しても、それを見て相談に来る人はそれほど多くなかった。そこで、「まずは仲良くなろう」、「信頼関係を築こう」という方針で楽しいイベントを開催し、そこに参加してもらうことを目的とした。
対象とした人	基本的には、社会とつながりたいが何らかの理由でつながれない人すべてを対象とする。 具体的には、ひきこもり状態にある、家族の介護や育児をしている、定年後行くところがなくて家にこもりがち、どこに行っても仕事が続かない等、制度の狭間で苦しんでいる人等を想定した。
内容	蓮田のカフェ（あいのたにロータスステーション）で月1回イベントを開催したほか、相談窓口として日々相談対応を行った。最初から「相談会」と広報するのではなく、まずは当団体を知ってもらうこと、楽しいイベントに来て他の地域住民やスタッフと仲良くなっちゃうことから始めた。 <ul style="list-style-type: none">相談対応：面談のように勧めるのではなく、イベントの中で小物やおにぎり等を作りながら楽しい雰囲気の中で応対した。居場所の提供：当会施設のほか、地域サロンを紹介した。就職希望の方への仕事の紹介：仕事のマッチング、見学や体験機会の提供を行った。

(2) 取組の成果

連携した団体	本事業を行うにあたり、運営委員会を立ち上げ、地域の大学や行政の方に参加していただいた。
協力いただいた団体	大学、行政、社会福祉協議会がメンバーとなり事業へのアドバイスとサポートをいただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	事業を行うにあたり、「相談窓口」を「イベント」という誰もが参加しやすい形にした。孤独・孤立の状態にある人蔵に参加いただくのは難しい面もあるが、こうしてイベントを開催することで、孤立しそうな人が実際に孤独・孤立の状態となることを予防できたと感じた。何度もイベントで顔を合わせるうちに、あまり人に知られたくない悩みの相談をしてくれる方もいた。細々とでもやり続けることが最終的に支援につながっていることがわかった。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント参加者数 (8月-1月 6回) 約 348 人 ・ 相談件数 (7月-1月) 15 件 ・ 仕事マッチング実績 1 件 ・ 定性的成果：月に1度のイベントを6か月間続けてきた中で感じたことは、参加者の顔が明るくなっていたことである。相談とまではいかなくとも悩みを打ち明けることで「気持ちがすっとした」とおっしゃる方や、長浜市等につなげた方は次のステップに進めたことで前向きになれた様子であった。 就労を希望される場合は、仕事にマッチングできるのが望ましいが、マッチングできなかつた方においても、地域の方や支援団体などつなぐきっかけを作ることができたということも成果の一つと感じている。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	認定特定非営利活動法人 つどい
代表者	理事長 川村 美津子
設立年月日	2011年1月27日
スタッフ数	正職員 13人 パート職員 27人
団体住所	滋賀県長浜市常喜町 885 番地
ウェブサイト	https://chitoteto.net/
メッセージ	長い間引きこもっていた人が出てこられるようになった姿、生き生きと働く姿、何よりずっと心配していたご家族が笑顔になる時が、やっていてよかったです。AI やロボットが主流になってくる時代ですが、やはり人のケアは人でなければできないと思っています。人にしかできないことを一緒にやっていきましょう！

団体名：特定非営利活動法人 滋賀県社会就労事業振興センター

取組地域：滋賀県 草津市

取組名：社会・地域・人とつながるための参加準備支援事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
食を通じたつながり		★ 働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

☆ 多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	★ ひきこもりの状態にある人	☆ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	就労の準備や居場所を探す前段階の支援が必要な人たちに対して、①就労意欲の醸成に向けた軽作業の提供、②利用者のニーズにあった居場所づくり、③地域とのつながり作りを行うことで、各々が自分のペースで、社会とつながるための準備（社会参加の第一歩）を始めることを支援したいと考えた。
対象とした人	孤独を感じたり、孤立した状態にある等、社会等とのつながりが希薄な人
内容	<p>① 就労意欲の醸成に向けた軽作業（有償ボランティア）の提供 利用者が同じ場所・時間帯に作業をすることによって、コミュニケーションを取る等の「人とのつながり」を作るための足掛かりとした。</p> <p>② 利用者のニーズにあった居場所づくり 利用者、支援団体等と連携し、利用者のニーズにあった居場所づくりを行った。</p> <p>③ 地域とのつながり作り 利用者とともに、地域活動（今回は地域の防災訓練）に参加し、地域住民とのコミュニケーションを図った。</p>

(2) 取組の成果

連携した団体	・市社会福祉協議会、学区社会福祉協議会と連携した。学区社会福祉協議会の2階に拠点を設けることでイベント等での連携も行えている。
協力いただいた団体	・居場所を開拓する中で、ひきこもり等の様々な生きづらさを抱えた人等でつくる当事者団体の方々とつながることができた。
対象とした人とつながるために行った工夫	草津市が実施する重層的支援体制整備事業のアウトリーチ事業を受託している事業所と連携を図り、アウトリーチ事業の利用者に本事業で設けた居場所を利用いただいた。 利用者（当事者）が当事者を誘うかたちで利用いただくこともあった。 また、当センターが発足者となり、近隣の自治体（守山市、栗東市、野洲市）が実施する重層的支援体制整備事業（参加支援事業）の受託事業者と「4市情報交換会」を2度開催し、利用について案内した。
定性的な成果	①軽作業の提供 実施回数：6回、延べ参加者数：17人 複数人で作業をする中で、各利用者から、周りの人への「配慮」や「思いやり」が見受けられた。支援者としては、普段の面談では見られない一面を見ることができ、その後の支援に活かしている。
定量的な成果	②居場所等の提供 実施回数：8回、延べ参加者数：29人 利用回数が増えることで、支援者との関係が構築され、支援者と利用者の会話も段々と増えていった。会話の内容も趣味の話や雑談を中心としつつ、少しずつ困っていることの話や、やりたいことの話なども増えていった。 ③地域とのつながり活動（防災訓練） 実施回数：1回、参加者数：2人 人と話すことが苦手だと言っていた利用者が、地域活動で周りの参加者が簡単な自己紹介をする中で、自己紹介をすることができた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 滋賀県社会就労事業振興センター
代表者	理事長 城 貴志
設立年月日	1998年10月1日
スタッフ数	27人（令和6年3月時点）
団体住所	滋賀県草津市大路二丁目11-15
ウェブサイト	https://hataraku-shiga.net/
メッセージ	本事業は「生きづらさ・働きづらさを抱える人たちと一緒に軽作業する場所がほしい」、「準備も含めて、みんなで居場所を作つてみたい」、「地域を巻き込んで、そして地域から巻き込んでもらえるような場所を作りたい」といった思いからスタートしました。引き続き、地域の方と力を合わせて、より素敵な居場所を作つて行きたいです。

団体名：社会福祉法人 光養会

取組地域：滋賀県 高島市 安曇川町

取組名：買物困難や交通不便を補う地域社会システムの立ち上げ活動

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
★ 買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	こども・若者	中高年者	★ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	高齢者等の交通不便を抱える自治会において、地域住民や関係団体等と協働して、定期的に買物等に行き生活を維持していくための取組を行い、人と社会がつながる機会をつくる。これにより、住み慣れた地域で安心、安全に自立（介護予防）した生活ができるよう関わることを目的とする。		
対象とした人	買物困難、交通不便を感じておられる高齢者 単身世帯や二人暮らし世帯の高齢者	山間地域、湖岸地域に住まう高齢者 相談先がない高齢者 等	
内容	<ul style="list-style-type: none">アンケート調査（安曇川地域住民自治協議会、高島市社会福祉協議会と連携）日常生活における買物（週に1回）日常生活における相談（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所との連携）日常生活における介護予防、認知症予防の取組日常生活における人との交流の場づくり（自治会内、バス内、スーパー内） 等		

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇川地域住民自治協議会、高島市社会福祉協議会：アンケート調査の実施における連携
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> ・高島市都市政策課、高齢者支援課（地域包括支援センター）、市内複数の交通事業者、高島警察署等：高齢者等の現状の交通手段、年代別免許保有者数、交通関係法令等を確認
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・全世帯アンケート調査：安曇川町内の全世帯（自治会加入世帯）に事業の説明、利用申込登録用紙及びアンケート調査票を配布することで、関わりを望まれている方、必要な方に情報が行き届くよう工夫した。結果、登録のみの方も含め、孤独・孤立や介護予防の視点からも人とのつながりが必要と思われる方を把握し、関わることができた。 ・多様な主体との連携：山間地域の自治会区長・副区長らに説明し、地域で移動手段が必要な高齢者に利用を勧めていただいた。利用する方には、利用前（週初め）に電話で健康状況や予定の確認を行う等、生活状況の確認を行うとともに、家族や関係機関とも関係性を構築し連携した。（デイケアの利用予定日を変更する等） ・多様な場での説明：ふじカフェ（施設内で1回実施）で説明し、「ふれまち交流バス」をこれから必要とする方がいることや、自治会に加入されていない高齢者等の交流の場づくりの必要性も把握できた。
定性的な成果 定量的な成果	<p>週に1回、「ふれまち交流バス」を計画的に利用することで、利用者同士の「顔なじみの関係」が構築され、車内でも自ら会話をされるようになり、笑顔が増えた。また、買い物も実際に商品を目で見て楽しみながら選んだり、買い物途中に顔見知りの方と会話される等、孤独・孤立の予防に役立った。</p> <p>利用のための登録のみに留まった方もおられたが、事前に電話確認や自宅訪問等による生活状況の把握を行い、関係機関と連携を図ることで、高齢者等の孤独・孤立予防につながった。</p>

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	社会福祉法人 光養会
代表者	理事長 橋本 辰美
設立年月日	1992年8月
スタッフ数	128人（令和7年1月末現在）
団体住所	滋賀県高島市安曇川町下小川 3220番地1
ウェブサイト	https://www.kouyoukai-fujinosato.jp/
メッセージ	<p>時代の流れとともに変化する地域それぞれの課題を知り、気づいた事業所や気づいた人が無理なくできることをする。そうした実践の一歩を踏み出すことが、地域福祉の向上につながると思います。</p> <p>皆さんと共に、これからもふるさと（人）のために行動していきます。</p>

団体名：特定非営利活動法人 immi lab

取組地域：滋賀県 東近江市、近江八幡市、長浜市など

取組名：滋賀県在住の移民ルーツを持つ若者を対象としたレジリエンス育成事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供	★ 居場所づくり		
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり		
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築	☆ アウトリー型支援の推進		
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築		
情報発信の充実	☆ SNS 等を活用した相談支援		
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備		
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築		

取組の対象

多世代	☆	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	★	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援			

(1) 取組の内容

目的	定期的な対面支援実施により、移民ルーツの若者の中に、プロジェクトポンテ（1対1のメンタープログラムを軸とした移民ルーツの若者のエンパワーメントを目指す事業）のコミュニティとしての意識を高める。若者とより身近な関係をスタッフが築くことで、若者が挑戦したいことをより明確に伝えることができ、目標に向け具体的に行動できるようになることを目指す。
対象とした人	滋賀県在住の移民ルーツを持つ若者（15～25歳） ※ブラジル等ラテンアメリカルーツを持つ若者がほとんど
内容	<p>① 若者の日常や将来の不安や話したいことに伴走するメンタープログラムと対面 & オンラインの居場所事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・ テーマは特に、若者の将来や社会に出るための準備になるような内容のものを多くカバーした。成長計画づくり、進学や進学のお金に関して、面接やプレゼンテーション練習、ポートフォリオ作り、初めての場所への訪問と文化の学習、振り返りと感謝 等・ オンラインイベントでは、若者とメンターのペアがそれぞれの活動について振り返り、言語化する様子を他の参加者が聞く形を取った。 <p>② 連携するブラジル学校ラチーノ学院への訪問を実施。</p>

(2) 取組の成果

連携した団体	準学校法人ラチーノ学院（学校運営における保護者との関わり方、キャリア相談等を支援）
協力いただいた団体	滋賀県国際協会、滋賀県草津市、京都市教育委員会等の行政機関（進路ガイダンスにおける講演） 京都外国语大学、京都外国语専門学校（ボランティアやメンター紹介）
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 若者が安心できる環境づくり：ブラジル学校への訪問、アウトリーチに加え、スタッフやボランティアにも当事者を増やすことで、若者が話しやすく安心できる環境づくりを心掛けた。言語は対面居場所では常に日本語とポルトガル語とし、若者にとって一番本音が伝えやすい環境になるよう心掛けている。 許される環境づくり：ドタキャンやリスクケジューリングが生じても、それをできるだけ咎めない。レジリエンス（困難を乗り切る力）がまだついていない若者にとっては、小さな挑戦も大きな負担になりうるためである。再チャレンジして、実際に「できた」時に認めたり褒めたりすることを意識している。 SNS や講演活動の拡大：団体 Instagram のリール（動画）として発信することに加え、各地講演も行った。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 対面居場所：実施回数 10 回、参加延べ人数 若者 72 人・保護者 9 人 オンライン居場所：実施回数 4 回、参加延べ人数 29 人 アウトリーチの学校訪問：実施回数 4 回、参加延べ人数 若者 51 人 新規連携先の数：4 団体（機関） 投稿発信：Instagram 投稿 18 回（ストーリーは約 40 回）、note 記事 5 回 定性的成果：プロジェクトポンテに参加する若者の行動意欲向上、プロジェクトポンテを「コミュニティ」として見る若者の増加、プロジェクトポンテの知名度の高まり等に加え、大学・専門学校進学者を初輩出した。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 immi lab
代表者	代表理事 北川ペドロソ 実萌
設立年月日	2020 年 1 月（法人登記 2024 年 11 月 12 日）
スタッフ数	常勤職員 2 人 非常勤職員 3 人
団体住所	京都府京都市伏見区山崎町 367
ウェブサイト	https://www.immilab.org/ (Instagram https://www.instagram.com/immilab_jp/)
メッセージ	本事業を通して、移民ルーツの若者の伴走の効率と質を大きく向上させることができました。また初めて、移民ルーツの若者の大学進学者を 3 名輩出することができました。次の目標は、持続可能な体制をつくり、より多くの散在地域の移民ルーツの若者につながり、可能性を広げることです。是非今後とも応援よろしくお願ひいたします。

団体名：一般社団法人 京都わかくさねっと

取組地域：京都府 京都市

取組名：地域のカフェを核にした孤独・孤立への早期対応と予防の取組

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供	★ 居場所づくり		
食を通じたつながり	☆ 働くことを通じたつながり		
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築		
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援		
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備		
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築		

取組の対象

☆ 多世代	★ こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	☆ 外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	☆ ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	☆ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	これまで当法人が実践してきた「生きづらさを抱える少女支援のノウハウ」を活かし、少女たちに安心、安全と思ってもらえる「カフェ」を入口に、少女たちが楽しく交流する場と活躍できる場（働く場）を提供する。少女たちに寄り添う地縁と専門家のネットワークを構築し、アクション・リサーチによる孤独・孤立防止対策の探究・実践を行う。
対象とした人	少女（児童養護施設退所者、保護観察対象者、少年院退所者）、ひきこもり、虐待、DV、精神疾患等で生きづらさを抱えた人等を主な対象とした。加えて、地域に居住する人たち、生活困窮世帯やシングルマザー、独居高齢者、外国人等、当法人に関わった人たちも広く対象とした。
内容	<ul style="list-style-type: none">少女たちの孤独・孤立予防型／相互扶助型の地域包括支援の場として、安心・安全を確保したカフェを運営した。当初はこどもカフェや絵本カフェ等、少女たちが独自の発想で運営することを目指したが、難しい面もあったためカフェ全体を一緒に運営し、特に「大人こども食堂」の調理等に取り組むことになった。有償ボランティアの担い手は、わかくさねっとの一時入所スペースの入所者、生活困窮者を中心とした。体調やスケジュールに合わせた弾力的な関わり方を可能とした。来所した少女やスタッフのために心理カウンセリングを受けられる仕組みを整えた。

(2) 取組の成果

連携した団体	更生保護団体等の各種団体や市民団体、専門家組織に声をかけた。
協力いただいた団体	地域との連携について社会福祉協議会へ相談し、ニーズがあった「気軽に集まることができるスペース」を提供することで町内会、自治体と連携をとれるようになった。京都市、京都市左京区地域力推進室等とは、イベント等に出店して関係性をつくった。少女を軸に、青少年活動センターや大学、病院等ともつながった。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動：SNS (Facebook, Instagram) の頻繁な更新や、行政機関及び近隣地域へのチラシ配布を通じて広報を行った。少女たちも学校や児童館、図書館にチラシ等を配り、次第に認知されるようになった。 来訪者への対応方針：「1. まずは受け入れる」、「2. つながり続ける」、「3. 断らない」、「4. 最後まで聞く」を徹底し、つながりを深めるようにした。
定性的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 実施実績：実施回数 86 回／来訪者数 488 人／スタッフ延べ 260 人
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 事業を通じて知り合った地域住民の数：約 60 人 連携先（行政や他団体）の数：20 団体（機関） 参加した地域活動の数：5 件 他の NPO や行政等との連携により生まれた新たな取組：2 件 必要な社会資源につながった件数：6 件 定性的成果：カフェという存在が少女たちの良き聞き手、地域に開かれたコミュニティ・マネージャーとなり、地域の「気になる」や「困った」情報に対処した。具体的には、高齢者の話し相手、医療への橋渡し、虐待相談、シェルターの役割等である。また、少女たちの安心感やスタッフとしての定着性にもつながった。同じような生きづらさを持つ仲間や受け入れてくれるスタッフに出会い、「ここにいていいのだ」と思えるようになった。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 京都わかくさねっと
代表者	代表理事 斎藤 常子
設立年月日	2016 年 7 月 31 日 (法人 2018 年 12 月 26 日)
スタッフ数	38 人
団体住所	京都市左京区田中西浦町 19
ウェブサイト	https://kyotowakakusa.net/
メッセージ	解体していく社会の中に、共同性と公共性を再び見出し、統制や管理、排除や抑圧ではない共生の道をともに創っていきましょう。

団体名：一般社団法人 チームパッション

取組地域：京都府 綾部市

取組名：若者の孤独・孤立予防プロジェクト：農作業ボランティアと古民家リフォームを通じた地域交流

取組の種類

1. つながりの場づくり	
☆ 交流の場の提供	☆ 居場所づくり
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築	
地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援	
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組	
買い物支援や移動支援サービスの提供	★ 空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化	
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	若者と地域社会とのつながりを深め、孤独感を解消し、若者の社会参加を促進することを目的とした。具体的には、農作業や古民家リフォームといった活動を通じて、若者が自然や他人との交流を深め、自己成長を図る場を提供した。
対象とした人	高校生、大学生、20代の社会人等、若者を主な対象とした。
内容	孤独のリスクが高い若者にボランティア活動の場を提供することで、孤独感を軽減させることができると考えた。さらに、作業内容も農作業等、科学的にメンタルヘルスに良いと報告があるものを提供することで、ボランティア活動による効果と農作業による相乗効果が生じることを期待した。 <ul style="list-style-type: none">農作業ボランティアの実施：若者を対象に、農作業を手伝うボランティアを募集した。農作業を通じて自然との触れ合いや地域住民との交流を深め、孤独感を予防した。古民家リフォームプロジェクト：綾部市の空き家となっている古民家を若者の手でリフォームするプロジェクトを実施した。

(2) 取組の成果

連携した団体	ゲストハウス経営者、農家、フリースクール関係者、近隣及び専門家等、本事業を実施するうえでアドバイスや支援をいただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	<p>ボランティア活動において、昼食の時間を 2 時間ほど確保することで参加者同士のコミュニケーションを促した。また、作業においては 5 人程のグループにすることや参加者にニックネーム書いたテープを胸に貼ってもらうことで、コミュニケーションを取りやすいよう工夫し、交流の場を提供した。</p> <p>農作業やリフォーム作業は未経験の参加者が多かったため、準備のためにボランティアスタッフがあらかじめ作業をしやすいように準備し、参加者の負荷を減らし、達成感を得られる状況を提供することができた。</p>
定性的な成果 定量的な成果	<p>(定量的成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 準備のためのボランティア活動 : 20 回 ・ 若者向けの農業・リフォームボランティア活動 : 4 回、延べ 33 人が参加 <p>(定性的成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独感について、ボランティアの活動前と活動後に UCLA 孤独感尺度（孤独感の程度を測定するための心理的設問表）の 3 項目短縮版を用いて測定した。孤独感を表す数値について参加前では 53.4% であったが、参加後には 26.7% と減少した。孤独感、幸福度、自尊心のいずれにおいても、ボランティア活動前に比べ、ボランティア活動後は、改善が見られた。 ・ 参加者数名から、居場所づくりを手伝うことで、自分の居場所にもなる旨の発言が見られた。将来、しんどくなった時にいつでも戻ってこられる自分の居場所でもあることを理解していただけた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 チームパッション
代表者	西村 勉
設立年月日	2024 年 7 月 26 日
スタッフ数	3 人（理事）
団体住所	京都府京都市左京区
ウェブサイト	https://teampassion.net/
メッセージ	本事業では、若者が農作業や古民家リフォームを通じて孤独感を軽減させ、自尊心や幸福感を高め、地域とのつながりを築く場を提供しました。孤独・孤立対策を実施している皆様とも情報を共有し、互いに学び合いながら良い支援の形を築いていきたいと考えています。